

日本東アジア実学研究会主催
第九回「実心実学読書会」

日時：1月22日（日）14：00～17：00（日本時間）

作品：**西平直さん**『養生の思想』（春秋社、2021.4.15）

コメンテーター：**王一兵さん**（東北大学GSICSフェロー）
島田雄一郎さん（大船商船高等専門学校・講師）

プログラム

【第一部 90分】

- 14:00-14:10 西平さんご紹介、趣旨説明（片岡）
- 14:10-14:30 参加者自己紹介（“わたしの養生法”など）
- 14:30-14:50 王さんコメント
- 14:50-15:00 西平さんリプライ
- 15:00-15:20 島田さんコメント
- 15:20-15:30 西平さんリプライ

15:30-15:40 休憩

【第二部 80分】

- 15:40-16:55 参加者との対話
- 16:55-17:00 次回予告（片岡）

西平直（にしひらただし）さんご紹介

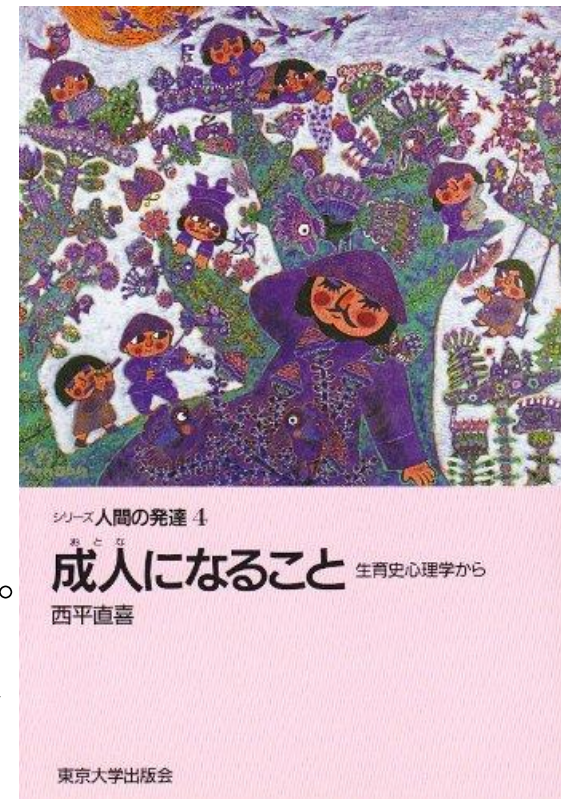
1957年、山梨県甲府市生まれ。 ※父は教育心理学者の西平直喜氏。
1979年、信州大学 人文学部 卒業(卒業論文のテーマは、ハイデッガー)。
1982年、東京都立大学大学院 人文科学研究科 修士課程 修了。
1984年、東京大学大学院 教育学研究科 修士課程 修了。
1989年、同博士課程 修了、教育学博士。

※博士論文「人間形成論への構図 -エリクソン研究序説」主査は堀尾輝久氏。

立教大学 文学部 助教授、東京大学大学院 教育学研究科 助教授
を経て、2007年より京都大学大学院 教育学研究科 教授。

専門：教育人間学、死生学、哲学。

著書：『エリクソンの人間学』（東京大学出版会、1993）、『魂のライフサイクル－ユング・ウィルバー・シュタイナー』（東京大学出版会、1997）、『世阿弥の稽古哲学』（東京大学出版会、2009）、『無心のダイナミズム』（岩波現代全書、2014）、『誕生のインフアンティア－生まれてきた不思議・死んでゆく不思議・生まれてこなかった不思議』（みすず書房、2015）、『ライフサイクルの哲学』（東京大学出版会、2019）、『稽古の思想』（春秋社、2019）、『修養の思想』（春秋社、2020）、『井筒俊彦と二重の見』（ふねうま舎、2021）、『西田幾多郎と双面性』（ふねうま舎、2021）など。



趣旨説明（「実学」読書会としての今回のめざし）

1、＜生命（いのち）を守り志（こころざし）を育てあう「実学」研究・実践＞という関心から、「養生」の思想を捉えなおす。

「ギリシア語で「配慮」を意味する「エピメレイア」は[……]「自己の世話をし、自己を変え、自己を浄化し、変形し、変容させる行動」。[……]養生に近い。しかし正確に重なるわけではなく、「修養」とも「修行」とも重なり、それらの全体を包み込むような緩やかな広がりを持っていた。その広がりをフーコーは「自己への配慮・自己への実践」と呼んだ。」（83頁）

2、コロナ禍による健康・経済被害を、一人ひとり異なる自分の生命のつながりの問題（「自分ごと」）として考える。

「三木清（一八八七～一九四五）がこんなことを書いている。健康は各自のものである。誰も他人の身代わりに健康になることはできない。誰かに自分の身代わりに健康になってもらうこともできない。健康はまったく個人のものである。「すべての養生訓はそこから出立しなければならない」（『人生論ノート』 出版は死後一九四七年、「健康について」）。そしてそれを「個性的」と言い換える。[……]つまり、養生は、一人ひとり異なる個性的な「健康の在り方」を、各自が発見していくことである。」（23～24頁）

次回予告

【オンライン実心実学読書会第10回】

日時：2月？(19,20,23,26)日14:00-17:00 (日本時間)

対象図書：小田原のどか『近代を彫刻／超克する』（講談社、2021/10/29）

1985年、宮城県仙台市生まれ。多摩美術大学彫刻学科卒業後、東京藝術大学大学院美術研究科にて修士号、筑波大学大学院人間総合科学研究科にて博士号を取得。芸術学博士。彫刻家／アーティストとしての活動と並行して、彫刻研究、版元経営、書籍編集、展覧会企画、評論執筆を行う。

コメンテーター：未定

〈思想的課題〉としての彫刻を語りたい。

街角の彫像から見えてくる、もう一つの日本近現代史、ジェンダーの問題、公共というもの……。都市に建立され続け、時に破壊され引き倒される中で、彫刻は何を映すのか。

近代を彫刻超克する 小田原のどか
ちようこく Nodoka Odawara

